

令和10年完成予定



糸田町立緑ヶ丘病院 医師募集概要



歴史とともに地域の健康を支える

「糸田町国民健康保険直営緑ヶ丘診療所」として、
昭和 28 年 4 月に 4 つの診療科 6 床で開設されました。

以来、地域住民の健康を支え続け
現在は町立病院「糸田町立緑ヶ丘病院」として
地域住民の疾病や身体状況に応じた
医療サービスの提供を行っています。

更に地域の中心になれる病院を目指し、
医療提供体制の強化のため、
令和10年に移転が決定いたしました。

今後も時代と地域のニーズに即した医療を
地域の皆様にお届けしてまいります。

病院紹介

地域医療の中核として、住民の健康を支える

糸田町立緑ヶ丘病院は、福岡県田川郡糸田町にある病床数99床（一般54床、療養45床）の病院です。救急告示病院の指定を受けています。

福岡県田川郡糸田町における唯一の病院として、長い歴史とともに地元住民の健康を支えています。

歴史とともに変化する多様なニーズに応じ、今後は地域包括ケアを今年度より実施予定です。



内科

外科

小児科

訪問診療科

整形外科

放射線科

リハビリテーション科

耳鼻咽喉科（休診中）

※新興感染症の発生時等に都道府県等の要請を受けて診療等を実施する体制があります。

◆ 診療実績（2023年度）

【外来患者数】診療別1日平均数

内科51.7人・小児科3.9人・外科11.3人
整形外科4.1人 全体71.1人

【入院患者数】 月平均24.1人

病床稼働率 53.6%

平均在院日数 25.5日

【救急車搬入台数】 年間約200件

主要許認可

一般病棟看護基準 13:1 看護補助加算 2
療養型病床群入院医療管理二群（II）
夜間看護加算 I b（2階病棟）II a（3階病棟）
救急指定
院内感染防止対策加算
入院時食事療養費（I）・入院時生活療養（I）
脳血管疾患等・運動器・呼吸器各リハビリテーション料

薬剤管理指導料
検体検査管理加算（I）
退院調整加算
患者サポート体制充実加算

新病院を核とした、 町づくり・町おこしを推進

糸田町立緑ヶ丘病院は、明治時代に操業した豊国炭鉱の付属診療所として始まりました。

その後、昭和28年に現在の地で町立病院となり、増改築をしながら地域に根ざした公的病院としての役割を果たし続けています。現在、当院は地域医療体制のさらなる強化に向け、令和10年5月の開業を目指して新病院への移転計画を進めているところです。



人口減少社会の中では、「消滅の地方」などと言われることもあります。雇用の問題などさまざまな要素がありますが、やはり地方が存続していくために最低限必要なのは、住民の医療的アクセスと良質な教育環境の整備だというのが私の思いです。地方の方がコストは安いですから、医療と教育をしっかり整備すれば、相対的な価値は都会と比べても決して見劣りしません。ですから町の指針として、新たな町立病院を核とした町おこしを強力に推進していきたいと考えています。

移転場所は地域住民の交流の場にもなるような広くて集まりやすい場所を検討し、「糸田アリーナ」の隣地にある町民グラウンドに決定しました。

「糸田アリーナ」は、多目的ホールや体育室を備えた町の複合施設です。町民グラウンドの周囲にはもともと歩道があるのですが、その歩道を病院と地域住民をつなぐ場として一体的に整備したり、傍にちょっとしたティーラウンジのような場所も作れたら、そこもまた一つのコミュニティが生まれる場所になります。



地域住民の交流拠点 糸田アリーナ

保育園も将来、病院の近くに持ってきてはどうかなど、病院を起点としたさまざまな案を構想しています。

地域医療への熱意ある先生と共に、 この地域の未来のために

私たちは現在、この新病院の中核を担っていただける、地域医療への志と熱意ある先生方を求めています。中心となる診療科は内科と小児科ですが、加えて、今後は地域の高齢者に必要とされている整形外科のリハビリも充実させていく予定です。高齢化が進む中では、急性期から回復期への治療を担う側面と、地域の中で看取りをしていく側面の双方が求められています。住み慣れたこの町で住民が安心して暮らし続けられるよう、訪問診療にも力を入れていきたいですね。

また、当院が抱える医療サービスの課題として、どうしても病院職員は公務員でもあるため病院運営を経営的に見る視点に欠けることが挙げられます。いかにして収益を得るかという目線があれば、そのためにはどのような医療を提供すべきなのかを考えることができますので、研修などの機会を含めて改善していけたらと考えています。

町立の公的病院ですから、何事も町のため、町民のためという意識は重要で、地域に根ざしていかないと生き残れません。先生方においても、医師という専門職であると同時に、やはりどこかで町の職員でもあるという意識を持っていただけると大変有難く思います。

今回の新病院の計画は、地域医療の提供にとどまらず、町の将来を考える上でも非常に重要なプロジェクトです。患者さんや地域住民が集い、町の賑わいの中心となるような病院を、町と病院で手を携えて作り上げていきます。共にこの地域の医療、そして地域の発展のために尽力いただける多くの力にお会いできることを期待しています。



糸田町 町長 森下博輝

事務長インタビュー

町や周辺医療機関と連携し、 一体となって地域医療を支える町立病院

— まずは糸田町の周辺エリアについて伺います

福岡県田川郡糸田町は、炭鉱町として発展した人口9000人ほどの町です。県中央部を指す筑豊地域を構成する自治体の一つで、筑豊の中心となる飯塚市の隣に位置しているため交通の便が良く、福岡市には車なら1時間ほどで行くことができます。都心までの鉄道アクセスについては新飯塚駅まで行く必要があるため少々不便な面がありますが、車のある方にとっては利便性の高いエリアです。

この辺りの住民は「川筋気質」と言われることもあり、それは「気性は荒いが義理人情に厚い」ことを表します。

ただ、私は生まれも育ちも田川郡ですが、全然気が荒いようなことはなくて。大学時代を東京で、中高時代を北九州市で過ごしましたが、都会と比べて田川の人にはフレンドリーで住民同士の距離が近いというのが私の印象です。



皆さん舌が肥えているため美味しくないお店はすぐに潰れて美味しいお店だけが残るので、食べ物美味しい地域ともよく言われます。イメージよりも、とても住みやすいところですよ。

— 新病院への移転計画も進んでいますが、地域においてどのような病院を目指されていますか

この周辺の医療機関には、300床を超える地域の中核病院として田川市立病院、社会保険田川病院がありますので、高度医療・急性期医療はそちらにお任せして我々は後方支援として回復期の部分を主に担っていく考えです。

また町の高齢化率が現在35%ほどになっており、当院を利用される患者様の殆どが高齢者です。高齢者をいかに地域で診ていけるかが求められていますので、訪問診療の実施や施設などとも連携しながらサポートしていくことを目指しています。



― 地域内での連携は、今もよく取れているのでしょうか

以前は田川郡のそこここにあった町立病院も、今や残っているのは当院の他に川崎町の町立病院と福智町の診療所だけです。

その田川郡の3施設に田川市の田川市立病院、社会保険田川病院を含めた5施設の院長と事務長で3ヶ月に一度「公的病院会」を開催しています。公的病院の使命として、田川地区を全体としてどのように盛り上げていくか、そのためにどのような医療サービスが必要なのかを一体となって議論しています。

― 今回の募集でお越しいただきたい先生像について教えてください

理想は地域医療に興味のある、何でもまずは診てくれる総合診療医のような先生を望んでいます。

加えて、高齢者のリハビリを診てもらえる整形外科の先生です。当院には整形外科の医師がいないので、皆さん飯塚市など外の病院まで通われているんですね。この地域に住んでいる人が、この地域で必要な医療を受けられる体制を整えたいと考えています。

事務長インタビュー 2

ー 貴院にいらっしゃる先生について伺います

内科の先生は2名で、お一人は九州大学からの派遣で来られた後に当院に就職された50代前半の先生です。非常に柔らかい方で、我々の要望も一生懸命聞いてくださいます。もう一人は40代前半の先生で、スキル面でも人格面でも当院の次世代を担ってもらえることを期待している先生です。

自治医科大学からの派遣もあるのですが、派遣予定の先生が産休に入られたりといった事情で、令和6年度と7年度の2年間は途切れてしまいました。



令和8年度からは、また常勤の先生が1名派遣される予定です。

小児科の先生はご高齢のため令和7年度で退職されますが、その後は九州大学の紹介で北九州市立医療センターの小児科部長の先生の招聘が決まっています。

九州大学小児科の教授がもともと2年ほど当院にいらっしゃったのですが、当時、私の母がここで看護師として働いていたので私も小さな頃から一緒にご飯に連れて行ってもらったりと交流があったんですね。私が今の立場になって新たに交流が生まれる中で、教授の信頼する先生を紹介してもらえることになりました。

福岡市立こども病院の院長先生も以前、筑豊地区に派遣で来られていたことからこの地域の小児医療を気にかけてくださっていて、今も田川市立病院に医師を派遣されたりとつながりがあるようです。当院でもその恩恵を受けて、先生がお休みの時などには助けてもらえるような協力関係ができています。

ー 新病院への移転にあたっては町との連携もあると思います。

事務長から見て、町長はどのようなお人柄でしょうか

糸田町の出身で地元愛が強く、町をいかに良くしていくかを常に考えておられる方です。福岡県教育委員会の部長まで務められた方なのでフットワークが軽く、リーダーシップがあります。役場の中でも係長なら係長、主査なら主査といった同じ年代の職員を集めて意見を聴き、そこから拾った意見を新しい施策に展開していくなど、これまでにない取り組みをされています。病院を何とかしたいという思いも強いので、会えば先生方の話や意見も非常によく聞いてくれるのではないのでしょうか。

今は赤字の状況ですが、関わってみるとどれだけこの病院が地域の高齢者、患者様に必要とされているかが分かります。コロナ禍では公立病院がトップダウンで政策を下ろしてすぐに動くことができましたし、PCR検査器もすぐに導入して保健所が立ち入れないところまで当院が担いましたので、地域になくてはならない病院だと認識いただいています。町ともしっかり連携し、地域に根ざした医療をこれからも提供していきます。

医師の裁量が大きく、働きやすい環境が魅力

ー 働く環境として、新病院の特徴があれば教えてください

医療現場は女性が多い職場です。これからは看護師不足が本格的に深刻化していくでしょうし、医師の女性比率も上がっていますので、女性に選んでもらえる病院づくりを1つのコンセプトにアメニティなどを検討しています。

公務員になりますので福利厚生面は充実しています。合わせて医師の働き方改革にも力を入れて、今は週4.5日の勤務ですが週4日勤務を実現していきたいと考えています。

ー 移住を検討される方に向けた制度などがありますか

借り上げ社宅の提供や、今は空き家が沢山ありますから町の空き家対策も兼ねてリフォーム補助などを検討中です。

お子さんがいらっしゃる場合は教育面を考えるとやはり福岡市が良いと、当院の先生方も福岡市から通われていますが、町の活性化にもつながりますので移住を希望される方は積極的に支援していきたいです。

ー 最後に先生方へのメッセージをお願いします

糸田町は面積が狭いため人口密度としては高く、過疎に認定されていなかったのですが令和4年によりやく認定され、過疎債が使えるようになりました。

地域における病院の必要性和財政面がちょうど合致したタイミングで今回の建て替えに踏み切ることができましたが、当然、医師がいなければ病院は成り立ちません。だからこそ一人でも多くの先生に来ていただいて、どんどん中身を強化し活気ある病院を作っていきたいのです。

当院では「この時間にこの業務を」というように業務内容が固まっているわけではなく、先生の裁量で比較的自由に業務を組むことができます。自分の診療スタイルで地域に根ざした医療に取り組みたいという先生には、大変お勧めできる環境ですので、ぜひご検討いただけましたら幸いです。

募集要項

令和10年移転決定！

地域に根付いた病院で公務員として勤務かつ
先生のスタイルに合わせた勤務が可能です！

おすすめポイント

- ・ 外来、病棟含め先生のスタイルに合わせた勤務が可能です。
(終日外来を開け、隙間時間で病棟対応など)
- ・ ブランクのある先生も歓迎、ゆったりとした勤務可能
- ・ 公務員扱いになる為、福利厚生や手当などが充実しています。

▼一般内科、訪問診療科▼

勤務開始：随時

募集背景：体制強化により募集

募集科目：一般内科、訪問診療科

勤務時間：月～金 08:30～17:15
土曜日 08:30～12:30

勤務日数：4.5日

休憩時間：60分

休日：週休2.5日 ※曜日確認

オンコール：原則なし※当直医からの問い合わせの可能性はあり

当直：月0～4回 なしも相談可能

勤務内容：外来診療

担当コマ数：5～7コマ/週

外来患者数：15～25名程/コマ

診療体制：3診体制※他科外来はあり

主な疾患：生活習慣、糖尿病

病棟管理

担当病棟：一般

担当患者数：30名程（一般病床）

担当制：主治医制

訪問診療（施設）

訪問数：2コマ/週

主な施設先：

基本給与：1,300～1,500万円

▼整形外科, リハビリテーション科▼

勤務開始 : 随時

募集背景 : 体制強化により募集

募集科目 : 整形外科, リハビリテーション科

勤務時間 : 月～金 08:30～17:15

土曜日 08:30～12:30

勤務日数 : 4～5日

休憩時間 : 60分

休日 : 週休2日 ※曜日確認

オンコール : 原則なし※当直医からの問い合わせの可能性はあり

当直 : 月0～4回 なしも相談可能

勤務内容 : 外来診療

担当コマ数 : 5～7コマ/週

外来患者数 : 30名程/コマ

診療体制 : 1診体制※他科外来はあり

主な疾患 :

病棟管理

担当病棟 : 一般

担当患者数 : 10～15名程 (一般病床)

担当制 : 主治医制

オペ

実施数 : 現在実施なし、実施希望の場合相談可能

基本給与 : 基本給与 : 1,300万～1,600万円



福利厚生

福利厚生・支援制度(全科共通)

契 約 期 間	： 期間の定めなし ※65歳以上は1年更新
休 日	： 土曜PM、日祝、研修日平日1日（年間130日以上）
休 暇	： 夏季休暇（5月～10月 5日間取得可能）、年末年始休暇（6日） 有給休暇（1年20日ベースとして支給、初月より支給）
退 職 金	： あり（継続半年経過後に支給）
各 種 保 険	： 健康保険・厚生年金・雇用保険・労災保険・医師賠償責任保険(負担なし)
赴 任 手 当	： なし ※相談可能
社 宅	： なし
住 宅 手 当	： あり（家賃の半分まで支給あり 上限2万8千円）
通 勤 手 当	： あり（院内規定により支給）距離×ガソリン代 ※福岡市からの場合約2万5千円 ※高速代については要検討
扶 養 手 当	： あり
時 間 外 手 当	： 年俸に含む（管理職手当として支給）
研 修 手 当	： あり
学 会 参 加	： 規定により補助あり（全常勤医師で60万円分の費用あり）
賞 与	： あり
昇 給	： あり
育 児 支 援	： 育休、看護休暇
駐 車 場	： 無料
大 学 医 局	： 九州大学、自治医科大学
定 年 制 度	： 65歳
試 用 期 間	： 6ヶ月（試用期間中の労働条件変更：なし）
時 間 外 勤 務	： 月平均0～10時間 医師個人の裁量により変動する
給 与 〆 支 払 日	： 当月末日締め、翌月20日払い
受 動 喫 煙 対 策	： あり（屋内禁煙）屋外の指定場所でのみ喫煙可
自 己 都 合 退 職	： 3ヶ月前までに申し出ること の申告期間

福岡県田川郡糸田町について

自然豊かで心安らく、穏やかにコンパクトな町

福岡県の中央、福岡市と北九州市のほぼ中間に位置する福岡県田川郡糸田町は人口約9千人ほどの小さな町です。

糸田町の面積は8km²と、福岡県内では2番目に小さな街と言われていますが、美しい田園風景と豊かな自然と水資源がありのどかで、のんびりとした空気の穏やかな町です。

かつては他の筑豊地方同様、町内に炭鉱があり石炭産業で栄えました。

現在では豊かな自然と水資源を活かし、バラ、洋蘭、イチゴ、ミニトマトなどの栽培が盛んです。

移住にあたっては、町をあげて引越し・売買・賃貸・リフォーム時の助成金や、家賃補助などを行っています。

福岡・北九州都市圏までは車で約1時間

福岡都市圏の天神からは高速経由で車で約1時間、北九州小倉北エリアからは高速経由で約45分と都市圏へのアクセスも双方1時間程度です。

乗り換えはありますが、鉄道も「平成筑豊鉄道」糸田駅があり、バスは直行便が福岡市天神から、博多駅から出ています。



金山アジサイ園



約300年続く糸田祇園山笠

各地区が高さ最大9m、重さ2トン以上の飾り山笠を担ぎ、町内を練り歩く勇壮な祭りです。

鉦（かね）と太鼓のリズムに合わせ、「エンヤヤッサ・コラヤッサ」という独特の掛け声が響きます。

山笠の台の上に合戦場面を演ずる武者人形を載せ、城郭や城壁をヒノキの葉や若竹で模すなど、豪華絢爛な装飾は見ごたえがあります。



農業の出発と、その年の豊作を祈る 田植え祭

毎年3月15日に金村神社で行われる豊作祈願の春祭りです。

神官による五穀豊穡の祝詞の奏上から始まり、田植舞の奉納などが行われます。

無形民俗文化財として残る日本の風景です。

無双窯



ダイヤの山羊羹



しんかいのホルモン鍋



水落の滝

施設概要

施設概要

名称：糸田町立緑ヶ丘病院
住所：〒822-1300 福岡県田川郡糸田3187番地
開設：1953年
理事長：森下 博輝（町長）
院長：水上 行房（自治医科大／消化器内科）
救急指定：2次救急
病床種別：99床（一般病床54床・療養病床45床）
地域包括ケア 8床くらいで初めてみる予定※今年中
宿日直許可：取得済
診療科目：内科・外科・整形外科・小児科・放射線科・リハビリテーション科
院内設備：電子カルテ、16列CT、エコー（4台）、MRI設備なし、内視鏡、X線手術室（使用なし）
アクセス：平成筑豊鉄道糸田駅から徒歩8分

医師、看護師体制（2025年4月現在）

医師 常勤 5名／非常勤 7名（非常勤）

※大学派遣医師 2名 院長含め2名

看護師 26名（正看護師）

診療実績（2023年度）

【外来患者数】診療別1日平均数

内科51.7人・小児科3.9人・外科11.3人・整形外科4.1人 全体71.1人

【入院患者数】月平均24.1人

病床稼働率 53.6%

平均在院日数 25.5日

救急車搬入台数 年間約200件

